

2015年3月期 第1四半期決算説明会

2014年8月5日

大日本スクリーン製造株式会社

常務取締役 最高財務責任者 (CFO)
近藤 洋一

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。



1. 2015年3月期 第1四半期 業績
2. セグメント別業績概況
3. 財務状況について
4. 持株会社体制移行について
5. 2015年3月期業績予想
6. まとめ

本日の決算説明会の内容：

1. 2015年3月期 第1四半期 業績
2. セグメント別業績概況
3. 財務状況について
4. 持株会社体制移行について
5. 2015年3月期業績予想
6. まとめ

>>前年同期比較

(単位:億円)	2014年3月期 1Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 1Q)	
売上高	593	100.0%	524	100.0%	▲68	-11.5%
営業利益	22	3.7%	22	4.3%	0	1.3%
経常利益	22	3.8%	23	4.5%	1	5.5%
四半期純利益	16	2.8%	15	2.9%	▲1	-9.1%

>>前四半期比較

(単位:億円)	2014年3月期 4Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 4Q)	
売上高	726	100%	524	100%	▲202	-27.8%
営業利益	43	6.0%	22	4.3%	▲20	-48.4%
経常利益	43	5.9%	23	4.5%	▲19	-45.3%
四半期純利益	31	4.3%	15	2.9%	▲16	-51.4%

■第1四半期の連結業績結果

>>経済環境および当社事業を取り巻く事業環境は、当期決算短信2ページに記載の通り

>>第1四半期業績は、売上高は524億円、営業利益22億円、経常利益23億円、四半期純利益15億円

>>前年同期比較：

- ・売上高は68億円減少（▲11.5%）
SEでファウンドリーの投資が前四半期に集中した反動により減少
- ・利益は前年同期と同水準、営業利益率は改善
前年同期に比べ、売上の減少に加え、前期に実施していた緊急対応策の解除や円安影響による人件費や研究開発費などの経費が増加した一方で、変動費率の改善やたな卸資産評価損の減少などにより前年同期水準を維持
経常利益は前年同期比、若干増益であったが、子会社での税金費用の増加により、四半期純利益は、前年同期に比べ減少

>>前四半期と比較： 売上、利益ともに減少

- ・売上は、主にSEの売上減少によるもの。加えて、MPの第4四半期への売上偏重による季節変動の影響
- ・利益面では、変動費率は改善しているが、売上の減少による減益要因は大きい

SE = 半導体機器事業

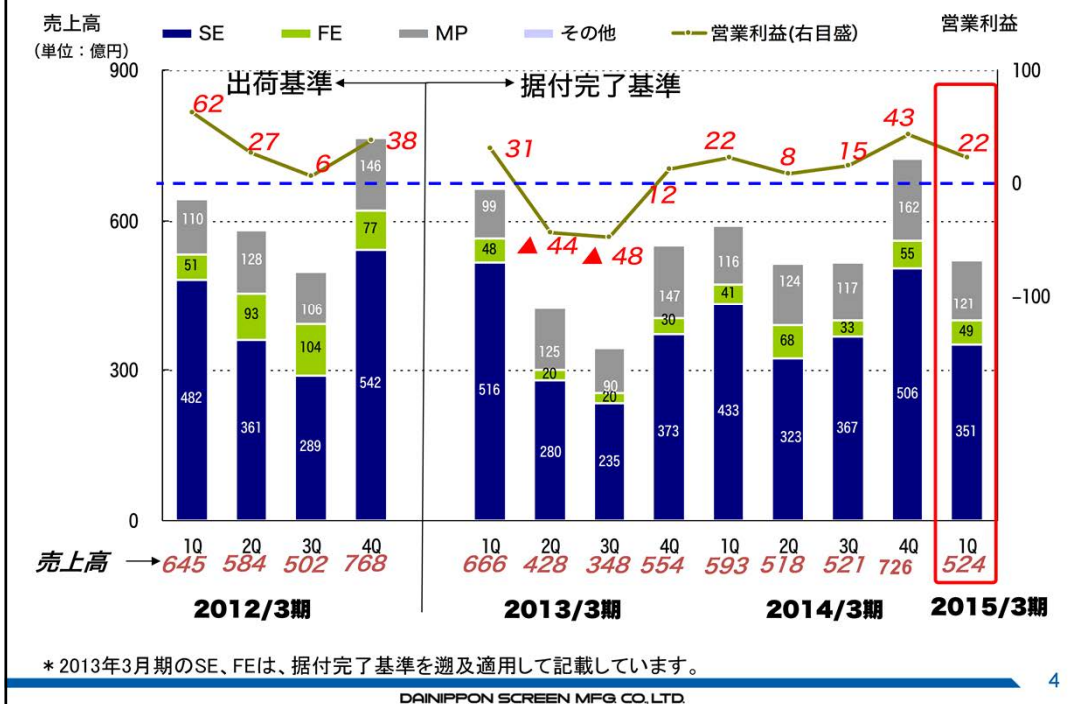
FE = FPD機器事業、

MP = メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業

MT = 印刷関連機器事業

PE = プリント基板関連機器事業

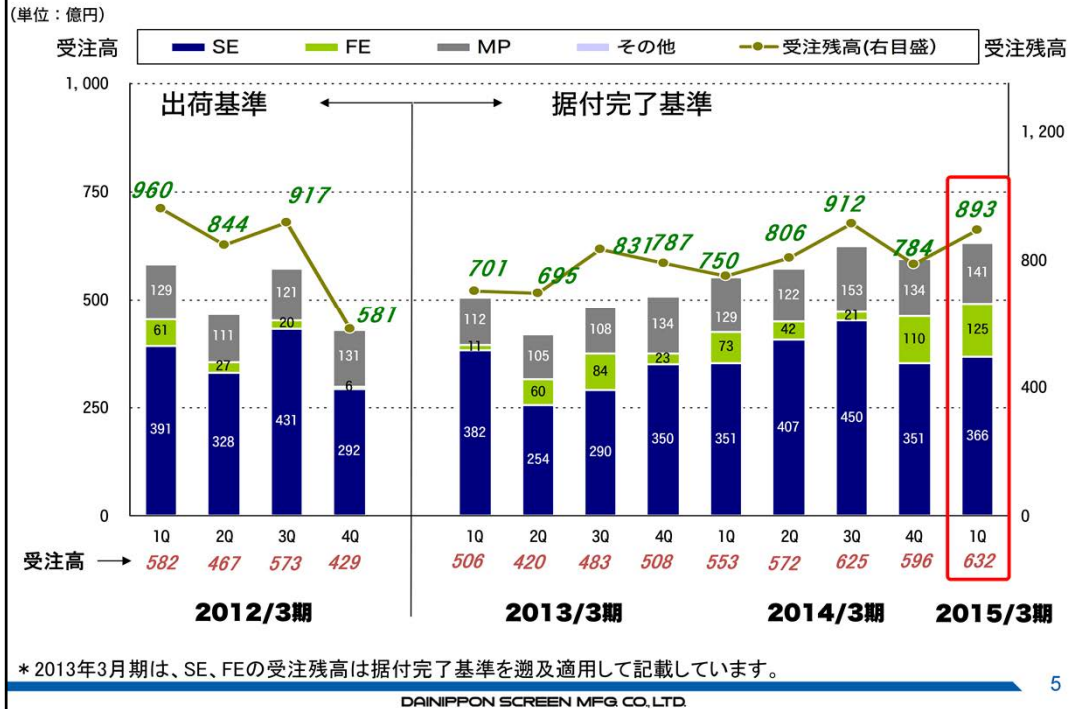
売上高・営業利益の四半期推移<連結>



■売上高と営業利益の四半期推移グラフ

第1四半期は、変動費率の改善に加え、売上高が低いと想定をしていたため、経費支出を遅らせ、固定費をコントロールしたことも営業利益率改善に貢献

受注高・受注残高の四半期推移<連結>



■セグメント別受注高・受注残高の四半期推移グラフ

>>第1四半期の全社受注高：632億円

・第4四半期596億円比、36億円増加

>>SEセグメント：366億円

・第4四半期351億円比、14億円の増加

→ファウンドリーが堅調であったため、想定を上回った

>>FEセグメント：125億円

・第4四半期110億円比、14億円増加

→中国のTV向け大型パネル用装置の受注獲得で増加

>>全社第1四半期末受注残高：893億円

・前第4四半期末784億円比、109億円増加

>>前年同期比較

(単位：億円)	2014年3月期 1Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 1Q)	
売上高	433	100%	351	100%	▲82	-19.0%
営業利益	21	4.9%	29	8.3%	7	37.7%

>>前四半期比較

(単位：億円)	2014年3月期 4Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 4Q)	
売上高	506	100%	351	100%	▲155	-30.7%
営業利益	39	7.8%	29	8.3%	▲10	-26.9%

>>トピックス

- ・前年同期比： 変動費率改善、たな卸資産評価損減少等により減収増益
- ・前四半期比： 変動費率改善、固定費減少等により、減収でもOPM改善
- ・受注： 1Qはファウンドリーは堅調に推移し、5月想定を上回った
2Qは5月予想のとおり
- ・事業環境： 5月の見方から大きな変化なし
下期はファウンドリーとメモリーがけん引

6

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

■第1四半期の連結業績結果

>>売上高：351億円

- ・前年同期比：82億円減少
→地域別では、欧州、北米向けが増加。台湾、国内が減少
→製品別では、洗浄装置、コーターデベロッパともに減少
- ・前四半期比：155億円減少
→地域的には、台湾が大幅に減少
→製品別には、洗浄装置、コーターデベロッパともに減少

>>営業利益：29億円

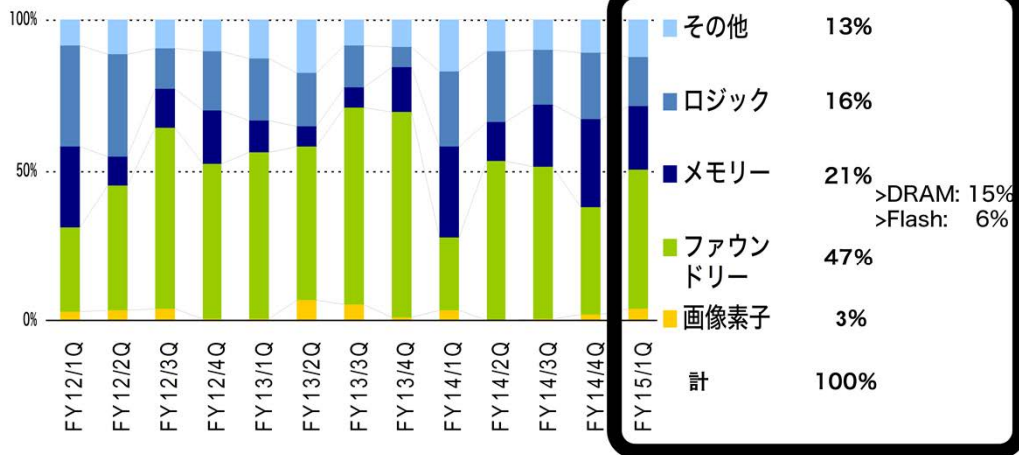
- ・前年同期比、前四半期比ともに、変動費率が改善
- ・たな卸資産評価損の戻し入れも増益要因

>>事業環境：5月の自社予想と変わらず、WFE*でCY2014は、5~10%増加と見ている

*WFE=前工程製造装置市場

>>単独・デバイス別受注比率

*ご参考:連結・受注高(366億円)



>>単独・1Q地域別受注比率

*FY12/2Qよりパーツをその他に含めている



■ SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

>>第1四半期実績

- ・ファウンドリーは、5月想定を上回り、高水準
- ・ロジックメーカーの動きは第4四半期に比べ減少したが、先端微細化投資は継続
- ・メモリーは、DRAM、Flashともに、第4四半期に比べ減少

>>第2四半期見通し

- ・ファウンドリーは若干減少する予想であるが、一方、メモリー（NAND）が増加を見込み、全体としては、第1四半期に比べて増加を予想

>>前年同期比較

(単位：億円)	2014年3月期 1Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 1Q)	
	売上高	41	100%	49	100%	8
営業利益	1	2.7%	▲4	-8.3%	▲5	-%

>>前四半期比較

(単位：億円)	2014年3月期 4Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 4Q)	
	売上高	55	100%	49	100%	▲5
営業利益	▲1	-3.2%	▲4	-8.3%	▲2	-%

>>トピックス

- ・前年同期比： 中国向け大型パネル用製造装置が増加するも、収益性は低下
プロダクトミックスの影響と固定費増加による
- ・受注： 前四半期(4Q)に引き続き、高水準を維持、中国向け大型TVパネル用
製造装置がけん引 →売上予定は、今期4Q以降
- ・事業環境： 中国での投資が中心
4Kテレビの普及で画面の大型化に期待

8

DAINIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

■第1四半期の連結業績結果

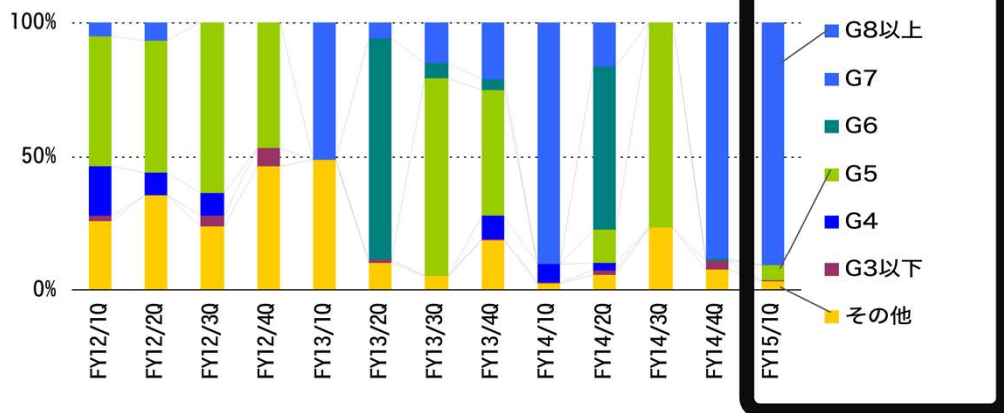
>>売上高は49億円。受注が低迷していた前期・前半の受注分が売上計上
前年同期に比べ、8億円増加(20.7%)。中国向け大型TVパネル用製造装置
が増加。前第4四半期に比べて▲5億円(▲10.1%)

>>営業利益は▲4億円で留まった。プロダクトミックスの影響と、固定費の増加
などにより、収益性は若干悪化

>>受注について： 前四半期から継続して、中国向け大型TVパネル用製造装置
(コータ-デベロッパ)が好調だった

>>単独・製品サイズ別受注比率

*ご参考:連結・受注高(125億円)



>>単独・1Q地域別受注比率

*FY12/4Qはクロスにて算出



■FEセグメントのガラス基板サイズ別受注

>>第1四半期実績:

- ・中国向け大型TVパネル用製造装置(コーターデベロッパー)を複数台を受注

>>第2四半期見通し:

- ・前四半期から続いた高水準の受注は、第2四半期、第3四半期は一服する見込み

>>前年同期比較

(単位：億円)	2014年3月期 1Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 1Q)	
	売上高	116	100%	121	100%	5
営業利益	4	3.7%	4	3.7%	0	4.4%

>>前四半期比較

(単位：億円)	2014年3月期 4Q		2015年3月期 1Q		増減 (15/3 1Q - 14/3 4Q)	
	売上高	162	100%	121	100%	▲40
営業利益	12	7.7%	4	3.7%	▲8	-64.5%

>>トピックス

- ・前年同期比： MT: 海外売上が増加。円安影響もあり
PE: 直接描画装置が台湾で増加
- ・前四半期比： 売上が4Q偏重傾向のため減収減益
- ・事業環境： MTビジネス、CTPの国内入れ替え需要
欧州は厳しい状況が継続するも、商談は増えつつある

■第1四半期の連結業績結果

>>第1四半期の売上高：121億円

- ・前年同期比： MTビジネスでは、海外の売上が増加、5億円の増収
為替影響もあり、CTP、PODともに増加
- ・欧州は厳しい状況が継続するも、商談は増えつつある
- ・PEビジネス、直接描画装置が台湾で堅調

>>前四半期比の売上高：40億円の減収

- ・例年の業界トレンドどおり、第4四半期に売上が偏重傾向にあるため

>>事業環境：MTビジネス、CTPの国内入れ替え需要が継続

貸借対照表<連結>

資 産

(単位：億円)

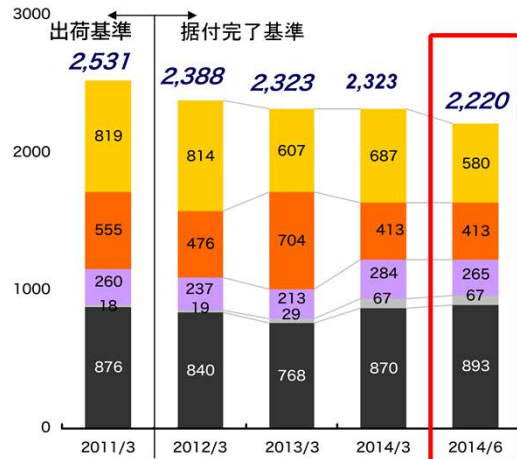
- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- たな卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 無形固定資産・投資ほか



負債および純資産

(単位：億円)

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産



自己資本比率 37.2% (2014/3) → 40.0% (2014/6)

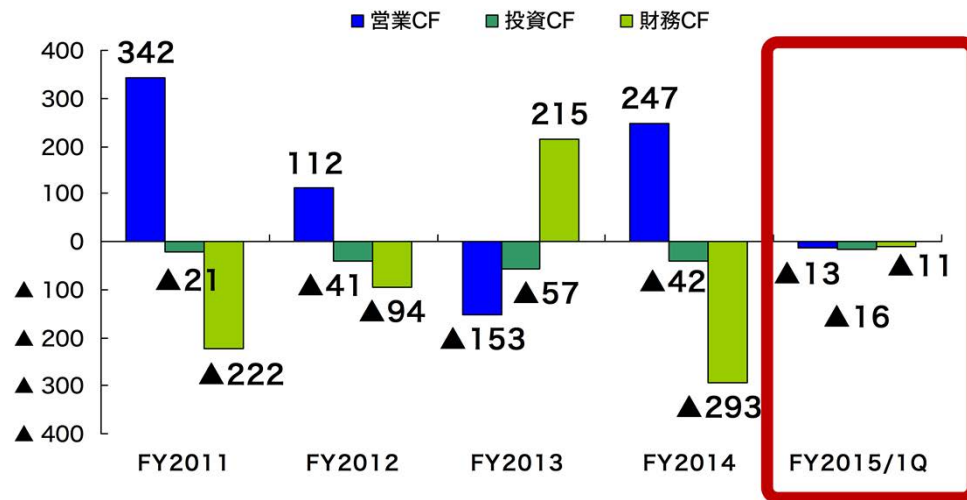
*2012/3、2013/3は、据付完了基準を遡及適用して記載しています。

2014年6月末 貸借対照表

- 資産合計：2,220億円（前期末比102億円減少）
受取手形及び売掛金、現金及び預金、たな卸資産が減少
- 負債合計：1,327億円（前期末比125億円減少）
支払手形及び買掛金が大幅に減少
有利子負債は413億円（3百万円減少）
- 純資産合計：893億円（前期末比22億円増加）
配当金の支払いの一方で、四半期純利益の計上や退職給付に関する会計基準の適用による利益剰余金の増加
- 当期末の自己資本比率：40.0% 前期末比2.8ポイント上昇

>>1Q・フリーキャッシュフロー： ▲30億円

(単位：億円)



キャッシュ・フロー

■営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少などの支出項目が、税金等調整前四半期純利益、売上債権の減少、たな卸資産の減少などの収入項目を上回り、13億円の支出

■投資活動によるキャッシュ・フロー

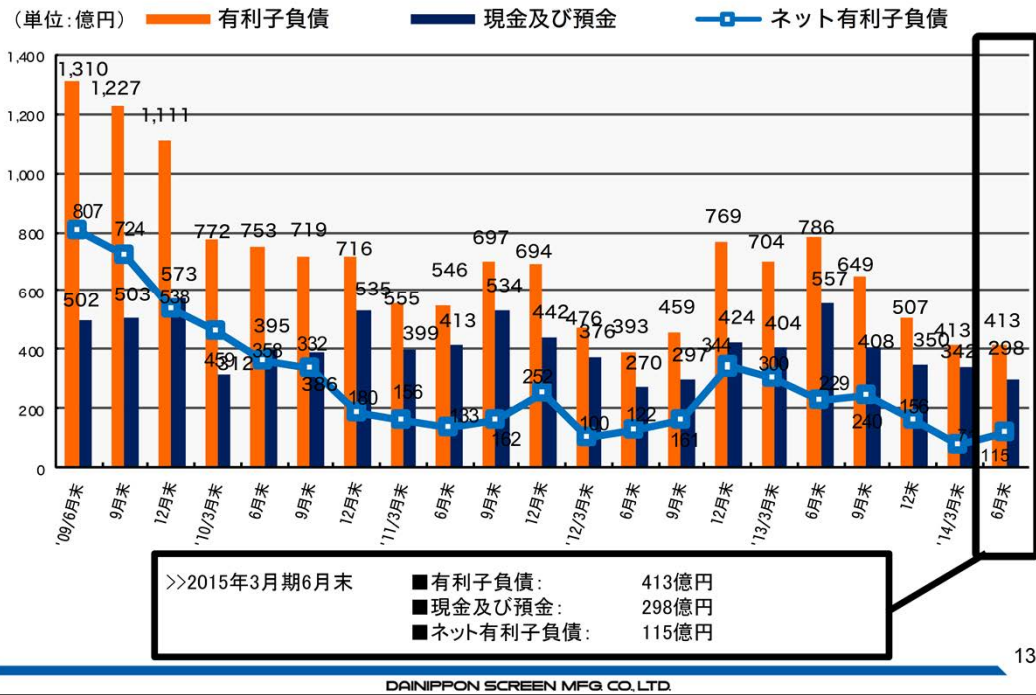
研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、16億円の支出

■財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いや借入金を返済したことなどにより、11億円の支出

■当第1四半期末における現金及び現金同等物残高：269億円

有利子負債推移<連結>



第1四半期末有利子負債の推移

■有利子負債：413億円

■有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債：115億円
 前期末に比べて43億円増加

>>2014年10月分社化準備は着実に進行中

持株会社移行準備室を設置し、課題解決と進捗管理
承継会社の新体制構築

株式会社 SCREEN ホールディングス

- 株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズ
半導体機器事業 代表者: 須原 忠浩
- 株式会社 SCREEN ファインテックソリューションズ
FPD機器事業・その他装置 代表者: 廣江 敏朗
- 株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ
印刷関連機器・PCB関連機器事業 代表者: 青木 克彦
- 株式会社 SCREEN マニファクチャリングサポートソリューションズ
製造支援・製造請負業務 代表者: 嶋治 克己
- 株式会社 SCREEN ビジネスサポートソリューションズ
シェアードサービス業務 代表者: 河原林 正

14

10月1日からの持株会社体制移行に際して、承継会社の社名、代表者、役員体制を
本日(8月5日) 発表

社内でプロジェクトチームを組成し、移行準備を進めており、概ね予定通りに進捗中

(単位：億円)	上期		下期		通期	
	5月発表	8月発表	5月発表	8月発表	5月発表	8月発表
売上高	1,080	1,130	1,280	1,280	2,360	2,410
S E	730	770	815	815	1,545	1,585
F E	85	90	180	180	265	270
MP	260	265	275	275	535	540
O T	5	5	10	10	15	15
営業利益	35	47	65	65	100	112
経常利益	30	45	60	60	90	105
当期純利益	22	30	53	53	75	83

●想定為替レート>> 1米ドル=100円、1ユーロ=135円

●年間配当金予想>> 期末配当1株当たり5円(5月予想から変更なし)

15

DAINIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

■2015年3月期業績予想について、

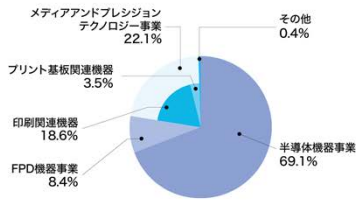
第1四半期においてS E受注が想定を上回ったことなどにより
 上期の業績予想を修正
 下期に関しては変更なし。通期は上期分の修正を反映

- >>事業環境は、概ね期初想定どおり
- >>足下の受注状況を鑑み、上期の業績予想を上方修正
→ファウンドリー各社は、活発な設備投資計画・実行中
- >>変動費削減を中心に、収益構造改革は進行中
- >>10月1日付、持株会社体制移行に向けた作業は、
着実に進捗
→事業執行のスピードアップ、各事業の独立採算
の強化、収益力向上を目指す

- >>事業環境は、概ね期初想定どおりに進んでいる
- >>足下の受注状況を鑑み、上期の業績予想を上方修正、下期予想は据え置き
→その背景は、SEの顧客であるファウンドリー各社が、
活発な設備投資計画を実行されているため
- >>前期からの継続課題である変動費削減を中心に、収益構造改革は進行中
→上期中に、SEは変動費5ポイント改善を完遂予定
- >>10月1日付、持株会社体制移行に向けた作業は、着実に進捗している
→持株会社化により、事業執行のスピードアップと独立採算の強化と収益力を
高めたい

以上、本日はありがとうございました。

事業別の連結売上高比率



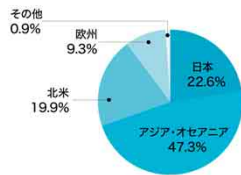
売上実績

単位：億円
(単位未満切り捨て)

	2013年3月期	2014年3月期		通期	前期比
	通期 (掘付完了)	上半期 4-9月	下半期 10-3月		
売上高	1,997	1,111	1,247	2,359	361
SE	1,406	756	873	1,631	224
FE	120	109	88	198	78
MP	463	240	279	521	58
MT	401	204	233	439	37
PE	61	34	46	82	20
その他	7	3	4	8	0
営業利益	▲ 48	30	58	89	137
SE	▲ 37	28	57	87	125
FE	▲ 8	0	▲ 3	▲ 4	4
MP	14	9	16	27	12
その他・調整額	▲ 17	▲ 8	▲ 12	▲ 22	▲ 4
経常利益	▲ 50	25	57	83	134
当期純利益	▲ 113	15	37	54	167

SE = 半導体機器事業
 FE = FPD機器事業、
 MP = メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業
 MT = 印刷関連機器事業
 PE = プリント基板関連機器事業

地域別の連結売上高比率



SCREEN

Fit your needs, Fit your future

